

内田地区 市長と住民の「こんだん会」会議録

日時 令和4年1月20日(金)
午後6時から午後8時10分まで
場所 内田地区福祉ひろば

1 個別テーマ「内田地区の集落営農の現状と課題」

(1) 内田営農代表理事 A氏の発言

ア 私たちの組織の前身は、農地改良事業により設立された「内田機械利用組合」。

この組合から設備などを引き継ぎ、平成18年4月15日に農事組合法人内田営農が設立され現在に至り、今年で18年目を迎える。設立の経緯は水田転作助成金交付の交付要件が変更となり、地域農業の担い手への交付条件がよくなったため。

イ 設立当初は農地の借り入れ面積も、水田6.4ヘクタール、畑2.4ヘクタールと少なく、個々の農家も「自分の農地は自分で守る」気迫があった。しかし現在では「内田営農に任せればいいや」とばかりに農業から離れる方が増え、現在では水田56ヘクタール、畑27ヘクタールと増加した。この背景には農業従事者の高齢化がある。

ウ また、当地区の専業農家は、ごく少数で、大半が兼業農家。農業より安定した収入が得られる会社勤めに力が入るのは仕方がないことと思う。私もつい最近までサラリーマンだったので、農家から離れる気持ちはよくわかる。

エ 一方、受け皿である内田営農も従事するオペレータの高齢化が進み、数年先には現在の半分以下になってしまう。随時募集はしているが、年間を通した仕事がないためか、募集に応じていただけないのが実情だ。

オ そんな我が営農だが、地域交流事業として、7月には「ブルーベリー摘み取り園」を行っており、今年で10年目になる。現在ではリピーターも多く、内田地区内はもちろん、近郊の塩尻、穂高から、遠くは、神奈川県から来てくださる方がいる。8月には「モロコシもぎ取り祭り」を行い1日だけの開催だが、親子連れ等々にぎわう。11月には「お菜取り祭り」を馬場家住宅の協賛で行い、地域住民との交流機会を設けている。今では各行事とも楽しみにして開催日時の間合せをいただくことも多くなった。

カ 現在の内田営農の経営面積は、先ほど申し上げた面積と若干異なり、台帳面積の約12%が畦畔となる水張面積というもので、実際に栽培している対象面積となるが、水田が50.1ヘクタール、畑で27.2ヘクタールとなる。

キ 次にオペレータの人員構成については、30代が2名、40代が3名、50代が1名、60代が8名、70代が9名という状態で、現在23名で活動している。平均年齢は64歳となる。30代から50代は勤めを持ちながらの農作業で、土日が主な作業日となり、主力は60代、70代が中心で、70代も後半に集中しているので、今後の営農継続に大きな不安を感じている。今後借り受け農地をお返ししなければならぬ状況も生まれてくるやもと心配している。後継者がいないというのが一番の課題となっている。

ク 次に内田営農の問題点と取組状況は、オペレータの確保、後継者の育成ということになるが、現在、若手数名に対してトラクタ、コンバインの教育訓練を実施している。我々の使うトラクタ、コンバインは農業用大型特殊免許が必要になる。入っ

てきた方には必ず免許を取っていただくように心がけている。今までの人は今年で100%全員取得していただくことができた。また今年度1名増えたので来年度また新しく免許取得をしてもらう。教育訓練は、収穫時期が年に1回又は2回しかない、そんな機会を通じての教育訓練なので、年数も時間もかかることになる。

ケ 次に農業資材や燃料の高騰だ。現在、肥料は昨年価格の1.5倍から2倍という状況。免税軽油も105円前後という状況。肥料の高騰対策は、国、県、JAにて肥料費の支援がなされることになっている。支援の説明をいただいたが、まだ内容まではよく分からない。内田営農としては手をこまねている訳にはいかないので、今年の春から側条施肥機を導入し、無駄の削減に取り組んでいきたいと思っている。燃料費の高騰に対しては、トラクタのエコモードを使ってオペレータにオペレーションの工夫をしていただいている。だいぶ節約できるようになってきた。

コ 次にスマート農業への取り組みだが、人手不足、無駄の削減など課題は山積みとなっているが、内田営農では、数年前から遠隔草刈り機をいち早く導入し、畦畔の草刈りに効果を上げてきた。まだ取り組めるものがないか調査研究していきたい。

サ 最後に、我々も内田の活性化にお手伝いできたらと考えている。まだ具体案はないが、一例としては食品加工場などを開設して、内田営農の生産物を加工販売などができたらと考えている。アドバイスを頂けたら幸いだ。

(2) 市長発言

内田営農の存在はこの地区において非常に大きなものであると、これまでも伺っている。オペレータの高齢化、後継者不足、これは松本市内の農業に携わっている方の共通する深刻な課題。当面の資材価格や燃料費の高騰に対しては国・県とともに松本市としても対応を進めている。その点について農政課長から少し説明をさせていただく。

(3) 農政課長発言

肥料価格の高騰については、松本市でも独自に支援を行うことを決めており、これから農家の皆さんへは周知をさせていただき段取りを取っている。これについては農協の協力もいただきながら農家組合等の回覧を使い、お知らせをする。具体的な内容としては今年度中に購入した肥料の購入価格の10分の1の金額を支援するもの。販売を目的に農業をしている方を対象に支援する。国・県事業との整合性を図る調整をするので、実際に支援がお手元に届くのは少し先になる。

(4) 内田営農従業者の発言

ア 副代表理事 B氏

(ア) Aさんから大方の所は説明をした。労働力不足が顕著であるため、将来にわたって維持していくのが非常に難しいというのが一番懸念される所。

(イ) 農業資材関係で値段の高騰による影響は肥料だけではない。為替が今128円台、原油が80ドルくらいで、肥料以外の農業資材も値が上がっている。こういったものは工夫しながら、できるだけ安価に、経営にプラスになる技術・情報を取り込んで、コストダウンに取り組んでいる。そういった経営も大事で、何から何まで言われたことをそのままやるのではなくて、自分たちで工夫していくという対応をしているのが現状。

(ウ) 農地の賃貸契約の話は、先ほど農業者主体に住民人口が減っているという話が

センター長からあったが、今、家に若い方がいても、自分の家の敷地内にある小さな野菜を作る農地でさえ耕作をしなくなっている。したがって自分の家から離れた田畑も、自分の家の田んぼはどこにあるか知らないという、昔では考えられない状況が生まれている。そういう所を全部、内田営農という組織が今まで賃貸を重ね、農地集積を重ねてきたが、もうそこまで手が回らない状況。したがって農地については、荒廃農地の防止というものの限界も農業委員会の方で話し合う時期に来ていて、仕方がないところについては荒廃化あるいは山林化という集約になっても仕方がないのではないかと。我々も努力はするが、トラクタや大型機械を動かせる合理的な圃場が主体になる。構造改善等を終了した農地、あるいは畑でも広い農地を主体にやらざるを得なくなっている。

(エ) 一番困っているのは生産費の高騰、農地維持に向けての取組み。こちらの関係が、一番頭が痛いということは理解していただきたい。

イ 農業委員 C氏

(ア) 高齢化というのが一番の問題で心配になっている。そのようなところでは機械を導入し、機械に頼って耕起、作付け、刈り取りをするという流れになっているが、その機械は1台1千万もするので、積み立てをしながらやっている。市の方から何らかの援助があれば助かる。

(イ) 農地の荒廃の関係では、構造改善をして四角く大きくなった農地については機械によって耕作が効率よくできるが、住宅の近くにある昔からの農地は機械も入らないので問題になっている。そのようなところは、地主に「自分の農地は自分で守る」というように取り組んでもらった方がいいのではと私としては考えている。

(ウ) 地区外の方が、構造改善をした後の農地を取得した事例で、なかなか耕作に入らないところがあり、大きく荒廃地になっている現状がある。私の方で写真を撮り、農業委員会に上げ、農業委員会の方から地主の方に連絡を取ってもらっているが、なかなか改善されないというのが課題となっている。荒廃地があると周りの農地に迷惑がかかる。荒廃地があるために獣が住み着いてしまうと作物に影響があるので、荒廃地はなくしていかなければならないというのが課題となっている。

ウ 認定農業者 D氏

(ア) オペレータとして20年以上一緒にやらせてもらっている。最初は農業に全く興味なかった。祖父母の代には農業をやっている農地はあったが、両親は農業をしていなかった。私が大学から家に戻ってきたときには、既にすべての農地は貸していたという状況で、自分も農業の知識は全くなかったので関心もなく、ただオペレータという仕事をすれば、休みの日に少しお金が稼げるという誘いに乗って参加した。一緒にやっていく中で、少しずつ農業に関心も出てきたし、勤め先が農協であったことから、自分でもやってみたいという思いがあり、就職後3年くらい経った頃に、補助などの制度も聞く中で、兼業農家として農業を始めた。自分としては面白く楽しくやらせてもらっているが、オペレータとしてあまり協力できていないことは申し訳ないと思っている。

(イ) 内田営農の現状をみると、先ほどセンター長が内田の状況を発表していたが、一番多い年齢層（70歳代）が、オペレータの中でも一番多い。これから15年

後20年後にメインとなる世代は我々の世代だと思うが、仲間が数人しかいないので、これだけの規模の農地をやることは不可能だ。やれないところは削っていくしかないと思う。

(ウ) 内田地区は、市内の他地区と比較してみても農業をやりづらい地区だと思う。

扇状地の中腹にあるので畦畔が広くて高い、いろんな所から水が出る、ハザードマップにもあるが、過去にも土石流災害があった影響で石を多く含んだ畑が多いため、耕作もしづらく機械も傷みやすい中でよくやっている。無理やり田を作ったような状況があるので、今のやり方でやっていたら続かないと思う。

(エ) そうは言っても、内田営農がなくなるということはしたくないので、いかに継続させていくかということを考えていきたい。ブルーベリー園などイベント活動に手を広げているので、そういったところを応援していきたい。「お菜取り祭り」を提案したのは実は私で、市政100周年記念の時に記念事業を地区で募集していた。少しでもにぎやかにできないかと考えて、当時、内田地区の役員の皆さんに相談をしたが、受け入れが難しいと言われ協力は得られなかった。その時に、当時、営農組合を立ち上げた代表の「協力してやる」という一言で、第1回目の開催ができた。私はそのあと転勤で協力できなかったが、その後1年も欠けることなく続いているというのは、すごいと感じているし、そのあと、新たなイベントも開催しているということで、これだけ団結力があって、地域貢献を考えている組織ということで誇りに思っている。

(オ) ついでに言わせていただきたい。先ほど内田営農で加工の関係にもチャレンジしたいという話があった。内田には、加工品の食の魅力がないので、そういうものが作れないか行政にも相談したが、一つの課で解決できるものではないし、市街化調整区域で大きなハードルもある。包括的に相談に乗っていただける部署や担当があるとありがたい。農政課や商工課あるいは保健所に個別に当たらないといけないので前に進めていない。そういったところを見直していただけないか。

(カ) また、市街化調整区域とそうでない区域が内田地区にはある。農業では市街化区域との境は非常に作業しにくい。そのような緩衝的な部分については農地・住宅以外の活用方法を何か考えられないかなと思うので検討していただけないか。

エ 女性従業者 E氏

(ア) 内田営農で事務員をやっている。発足当初の16年前から午前中事務、午後は農作業の方にも参加していた。発足当初は、女性も何人かの方に色々やっていただいたが、野菜の収益自体があがらず、段々と小規模化してきて、今はほとんどお手伝い程度のことしかしていただけなくなった。田畑は大型機械で耕作する男性中心となる作業なので、女性は田畑に出るということよりも、6次化の取り組みを考えていただいて、女性の活躍できる場所を提供していただけたらと思う。

(イ) 息子が新規就農者で3年ほど補助をいただいて、今年から本格的に自分で農業を始めたが、野菜で食べていくというのは、とても厳しい現状だ。内田営農でオペレーターもやらせていただいているが、実際には自分の方だけで手一杯だ。内田営農から協力をさせていただいて、いろんなものをお借りして、条件的にはとても良いが、実際に収益が上がらなくて、厳しい現実を突きつけられている。何をどうしたらいいかはわからないが、新規に農業をやろうとしている人への援助は長期間必要なのではないかと思う。

(ウ) 内田地区は空き家が増えている。空き家を集約して農業をやりたい方に安価で貸し出して定着していただく方法も考えていけたらいいのではないかと思う。

オ 女性従業者 F氏

- (ア) 内田地区に来た時に農業を始めた。手伝いながら義母に農業を教えてもらった。最初に始めたのがマメトラという耕運機だった。それがなかなか使えなかったが義母にいろいろ教えてもらったので、やっと今の状態になっている。
- (イ) ここは本当に石のある畑が多くて機械が動かないくらい土地がいけない所だった。私は島内出身なので、農地といえば田んぼしか知らなかったが、ここに来たら畑が多い。やり方も知らないで義母に教えてもらったが、できないことが多かった。しかし、何とかここまで来れた。
- (ウ) ここは水のないところで、あるところにはあるが、水が全然来なくて田んぼができないところもあった。畑は山になっていて石が出て、機械が入れる所がなかった。こんなところで農業ができるのかなと思っていたら、大きな機械ができて、構造改善をしていただいて大きな田んぼができ、大きな機械が入り、人手もできたので、今の様になっている。山の田んぼは大変だなど思う。
- (エ) 昼間、加工トマト（ジューストマト）をやっていた。これは、暑い中でやらなければならないうえ、重いので、手伝っていた子供たちも嫌だと言って手を出さなくなった。義母と二人でやっていたが、私が体を壊してしまってやめた。機械って欲しいなど思った。運搬車にしても大きな機械でも自分で動かせる機械が欲しいと、その時思った。
- (オ) 加工所を作るのは保健所から許可をもらわなければならないことなどが多くて私にはできないなど思った。でもDさんが提案した「お菜取り祭り」が20年も回っているんだと思ったら何かやればいいんだなど思った。

(5) 市長発言

- ア 5人の方から様々なお話をいただいた。Bさんから、荒廃農地あるいは荒廃するというものを一定程度受け入れざるを得ない、山林化も視野に入れて、これから耕作していくものは、合理的な圃場改善を行ってきたものに限ってくしかないし、また、そうしていくべきではないかという趣旨のお話をいただいた。内田という場所が、農業を行うにあたって非常に厳しい環境・地形にあって、これまで皆様が長く農業を続けてこられたが、若い人たちがここに住み、実際に耕作をするということが、右肩上がりが増えていく見通しが立たない以上、荒廃農地が一定程度増えることはやむを得ないという立場から、「では何ができるんだ。何をしなければいけないんだ」という厳しい現実を受けながらの前向きなお話の端緒だと私は受け止めさせていただいた。
- イ そのうえで、Dさんから様々な提案・指摘をいただいた。6次化にチャレンジしたいという人達に、行政としてどの様なサポートができるかということが、内田に農業の火を消さずに継続をさせていくためには大きなポイントだと改めて感じている。
- ウ そのために市街化調整区域の壁を、どう柔らかく緩やかに、ゼロか百か、マルかバツかではないようなアプローチを、行政の対応として法律の枠内で考えるべきことを、改めてご指摘いただいた。調整区域であってもできること、やっていただける範囲を広げていくということが、移り住む人や農業耕作をやろうという人に何ら

かの形で後押しになるということ、ともすれば違う方向を向いてしまう都市計画部門と農政部門とが同じ問題を解決するために知恵を出し合うという所に、しっかり陣頭指揮を執っていかねばならないと思っている。

エ Eさんからの御発言の、空き家が増えているのを有効活用し、潜在的に農業にチャレンジしたい人につながる様なものとして、安価に住居を確保できるようにして利活用をするように提示するというのは、全市的に必要な問題。農業にチャレンジする気持ちを持っている方には、まず住まいを提供できるかが非常に大きなポイントになっているということは今井地区でもいろいろな方から指摘された。

オ 「空き家の活用」と「6次化」が、後継者不足に少しでも歯止めをかけるポイントであることを改めて認識した。そして、農業の話に行くためにも、「少しでもこの地区に何らかの関与をしていこう、そのためには若い人たちが何らかの接点を持っていこう」ということの一つ事例として「お菜取り祭り」が示されたように、何か新しいことを始めるということに、人の面、お金の面で行政が手を差し伸べることは、今の局面の内田には大きなことなのだなと感じた。直ちに明るい話にならない所は重々あるわけだが、将来に向けての光が見える、どのようなことに対して向いていけば光が見えるのかということに、内田営農や農業に取り組んでいる皆さんと、手を携えて進めていきたいと思っている。

2 個別テーマ「内田地区町会連合会の現状と課題」

(1) 内田地区町会連合会 G氏の発言

ア 地区の概要を若干説明しながら、内田地区の課題に触れたいと思う。内田地区は、昭和35年に塩尻市から分市して松本市に合併された。

その時の人口は1,531人と記録がある。町会数は6町会でスタートした。その後、隣の寿台が造成された頃から内田地区にも開発の機運が生まれ、平成3年に新しい町会として第7町会、平成8年に第8町会、第9町会が誕生して現在の9つの町会ができた。その後人口は、増減があったが平成24年がピークで2,506人で、その後は、先ほどセンター長の説明があった通りだが、最新では、今年1月の情報で2,311人と発表されている。

イ 地区には文化財が数多くあり、国の指定文化祭として馬場家住宅、牛伏川の水路、牛伏寺の8体の仏像がある。地区独自の文化として市の重要無形文化財に指定されている「内田のササラ踊り」、これは地区で保存会を作って保存に努めている。コロナ禍で発表ができないが子供中心に各種の祭りに出かけて行って発表した事例もある。1月の正月に「おんべ祭り」があり、米の花に似せた紙を切って豊作を祈る祭りを、地区内の3地域がやっており、文化の継承をしている。

ウ 内田地区を紹介する市のホームページにセンター長が地区内の風景写真を掲載しているが、内田の誇れるところは、山並みがきれいに見える非常に風光明媚なところだと私も思っていて、地区内には風光明媚なレジャー施設として松本カントリークラブがある。去年は開場以来50周年を迎え、催しがあった。地区住民も積極的に雇用していただいている。町会としても親睦ゴルフや地区のゴルフクラブなども利用させていただいている。

エ 内田地区の運営について、別紙の組織図をご覧いただきたい。連合会が中心となって各種の団体等を集約しながら運営に当たっている。特徴的なことは、総会については全員総会ではなくて代議員制を取り入れている。各町会の常会単位で、概ね10戸に1名の割合で代議員を選出し、議決権は代議員だけにある。これが内田の

大きな特徴だと思う。

オ 各役員の任期は2年で、今年は任期を終えて改選となる。各町会では役員改選に関する規約も一応整備されており、これに基づき推薦委員から新しい役員選出をいただいているが、先ほどのセンター長の人口構成の説明にもあったとおり、住民が非常に高齢化し、高齢者のみの世帯も多くみられ、それぞれの事情も考慮しながら、家順や年齢順などで役員を依頼していて、町会長は皆、苦勞していることも承知している。

カ 民生・児童委員、青少年健全育成センター補導員など、行政に選出を依頼される役員については、町会長を中心に、それぞれ人選をして欠員の無いようお願いしている。健康づくり推進員の推薦については、市は、今回からしないということだが、町会としては、この組織を継続する話し合いを重ねてきた。継続理由の一つ目は、この役員に、地区の若い皆さんが就いていただくケースが多く、女性の参画できる場所を作り、仲間づくりをして次につなげていきたい。二つ目としては、地区の少子高齢化が進む中で、福祉の活動が重要になるので、健康づくり推進員の活動を通じて、福祉に対する知識を持っていただき、将来の民生委員の候補を確保していきたい。町会としても次年度以降の活動のための予算を確保していく。そういう思いを込めて残すこととしたので、よろしく願いたい。

キ 行政として考えていただきたいこととして、個人の価値観等が変化している中で、今の役員が本当に必要か、その人数が必要か、考えていただきたいと思う。

各地区で役員の負担を減らすような取り組みがあるように、いろいろな新聞記事にもあるので、松本市としても役員負担を減らすことができないか、考えていただけたらと思う。

ク 地区の課題としては、1点目は不法投棄の問題。内田地区は山林に面し、また中心部に河川が何本も流れていて、不法投棄が起こりやすい環境にある。地域を挙げての年3回の一斉清掃や、河川堤防の草刈りを実施するなどして不法投棄を減らす、できなくするよう努力をしているが、荒廃地への投棄、地主が不明または地主が地区外の方であるような土地への投棄の場合は、地域としては対応に苦慮する。そのようなときは地区の公害対策委員会を開いて対応するが、市には未然防止策について、ぜひ強化をしていただきたい。

ケ 2点目は太陽光発電所建設の問題。現在、地区内に規模の大きな太陽光発電所の建設が行われている。建設場所は、内田地区と密接で良好な関係を保っている松本カントリークラブの所有地だ。昨年説明会が開催され、本年7月に完成予定とのことである。地域としては大きな反対をする状況はない。松本市の関わりとしては、今のところ届け出制だと聞いている。市は新たに条例等を制定し、事業者に指導できる体制をとっていくと新聞には書いてある。条例制定前に完成した発電所に対しても指導できるような条例の中身にしていただきたい。また、建設用地は急傾斜地特別警戒区域の近くある。その場所から5メートルくらい離れたところに雨水の処理施設を作るとのことなので、もう少し離してほしいと事業者には言っている。行政に聞くと、警戒区域にかからなければ許可ができるとのことだが、そうは言っても崖のそばで、内田地区は災害の心配がある所なので、現地を見ていただいて、ぜひ指導をしていただけるようお願いしたい。

(2) 内田地区町会連合会 H氏の発言

ア 3点目として、公共交通網について説明させていただく。内田地区内を通って

る公共交通はアルピコ交通バス内田線のみ。これを存続させるための取組みとして町会連合会ではアルピコ交通と協議し、特別企画乗車券という往復チケットを内田地区地域づくりセンターで割安で販売している。詳細は本日の配布資料「内田地区の状況」12ページからの説明をご覧ください。割安価格には、町会連合会が1チケット当たり384円の負担をした結果が反映されている。しかし、人口減少と高齢化が進む内田地区において、現在の活力を10年後も維持するには、現状の内田線の在り方のままでは、交通手段として全く足りない。

- イ 内田地区社会福祉協議会では、本年度75歳以上の高齢者を対象に生活の様々な点におけるアンケートを取った。この中では、交通手段については別紙のとおりのおりの回答結果となった。現時点では自分で自動車を運転する人が多く、次いで同居家族の運転により移動している人が多いという結果となった。最初にセンター長が説明した資料に70歳から74歳までの所に人口のピークがある。今後5年間に後期高齢者が急増した際には、免許を手放して自分では運転できなくなる人の数や、同居家族がいない高齢者の数も増えると予想される。高齢者の移動面での孤立が顕在化し、極論すれば「内田は松本から隔離されてしまう」そんな言い方もできるかもしれない。そうしないための対策を今から考えていかなければならない。
- ウ そこで提案だが、高齢者の移動面での孤立を防ぐ具体策として、交通網で松原地区とつながることが手っ取り早いと思う。松原にある寿台東口バス停には、ほぼ1時間に1本のバスが来ており、朝夕は1時間に複数本の運行がある。内田と松原を寿台東口でつなげる循環バスを運行することにより、内田地区の公共交通面での孤立が防げるのではないかと思う。最終的には、循環無人バス、AIを活用したデマンド交通などができたらよいと思うので、今後さらに実証実験をするのであれば、ぜひ内田地区を実験対象にさせていただけないかと思う。
- エ もうひとつ困っているのは高校生の通学の問題。内田地区から松本市内の高校への通学は、親子ともかなりの負担となっている。このため、寿台東口バス停付近に駐輪場が欲しいと思う。これは寿台東口バス停を東南部のバスステーションとして開発し、そこに駐輪場の併設ができたらよいと思う。これらの方策により、内田地区及び東南部へのアクセスが容易になり、子育て世代の定住や移住が可能になり、少子高齢化対策の切り札になると思うので、ぜひ御一考を願う。

(3) 市長発言

- ア 内田特有の代議員制がとられている連合町会の在り方、いわば内田の中に一つの議会があるような形を今も続けられていると認識した。本当の意味での自治の在り方を続けていくことの意義と、その体制を続けていくことは大変なことだろうと拝察した。そのうえで、町会組織役員を持続可能なものとして続けていくために、市が選出をお願いしている委員や役員の見直しが必要ではないかのご指摘をいただいた。
- イ 私は就任以来、どのようなものを見直すべきなのか、見直せるのかということを取り組んでいる中で、とっかかりとしたのが健康づくり推進員だった。内田にとっては、将来の民生・児童委員のなり手のすそ野を広げていくことにもつながるのだという話が先ほどあって、内田において健康づくり推進員は重要な役割を果たしているのだなと知ったが、一方で地区によっては一番必要性が薄いので、まずこれから見直してほしいという声も上がっていた。今回、存続と撤廃は各地区によって判断していただいて、健康づくり推進員の在り方は見直しを始めた。

一方、一番大変な民生・児童委員は、数についての一定の見直しは進めていくが、法定のもので、地区にとって御負担になるが、地域の根幹を支えていただいている役割だ。全市的にはいろいろな形で確保していかなければならない。

ウ 健康づくりという面では、保健師の体制を、より「地区保健師」ということに力点を置く取組みを昨年から進めている。地区担当の保健師は、できる限り、地域づくりセンターに在席できるように少しずつ変えてきている。地区担当の保健師が地域の健康づくりの主軸となって、様々な連携をしていくというのを、これからの健康づくり政策の柱にしていきたいと思っている。

エ 連合町会の役員においての負担を様々な面で減らしていくということは引き続き取り組んでいかなければいけないと思っている。ぜひ、改めて具体的に「こういう部分は減らせるのではないか」あるいは「減らしてほしい」というお話を、この後いただければと思っている。

オ 不法投棄に関しては、現状において困難事例は、内田においては発生していないとのことだが、一回発生してしまうと取り返しがつかなくなるので、未然防止の強化については、今日のご指摘を受け止めていかなければならないと思っている。

カ メガソーラーについては、今年秋を目途に条例の制定を目指している。地元の皆さんの同意のもとに自然環境との調和を図るものであれば、推進をしていきたいと思っている。どこが線引きになるかは、立地場所が災害につながる危険性があるような場所かどうか、いくら何でもこの大きさのものができてしまえば、景観はじめとして、大きなマイナスがあるのではないかという視点からの検討のもとに条例の策定を進めていきたい。また、広さだけで決めてしまうと小分けにして申請をする事例もあるので、抜け穴にならないように考えた内容にしたい。

完成が条例制定前のタイミングとなる内田の事例について、しっかりと現場を見て、市としての対応を行ってほしいとのことのお話は、条例制定前であるがゆえに、余計に具体的な事例はどうなっているのかということ、環境エネルギー部に確認し、問題がないか、地元の皆さんの声を聴くことをしっかり指示したい。

キ 公共交通網についてお話をいただいた。まず、担当課長から現状の内田の状況をどう捉え、また、松原と内田をつなぐ寿台東口でのバス停の在り方についての提案もいただいたので、そのことについてお答えいたします。

(4) 公共交通課長発言

ア 内田地区の状況については、内田線は協議路線ということで寿台東口から倉村までの間、1日2往復4便が運航している。協議路線というのは、利用者が少ないので廃線にしたいという意向がアルピコ交通にあり、地域の皆さんと協議する中で、残してほしいという要望を受けて市が負担をしながら運行している。他の路線もそうだが料金も高く、時間帯は9時台と16時台ということで、どちらかという高齢者が買い物、通院に使っている部分で運行がされているのかなと思う。このため利用者もそんなに多くないという状況だ。

イ 今後どのようにしていくのかというご提案をいただいた。寿台東口を拠点として循環線を作ってアクセスをとったらどうか、また、拠点として駐輪場を設けるようなものにしたらどうかとのことだった。先ほど松本市の都市計画の話もあったが、交通についてはコンパクト・アンド・ネットワークということで拠点を結ぶ交通網をしっかりとつくることに取り組んでいる。寿台東口周辺を都市拠点と位置づけ、ある程度、日常生活等もできるような位置づけを持ちながらコンパクト・アンド・

ネットワークの取り組みをしている。

- ウ そこを拠点として寿台線は現在、村井駅・松本駅という鉄道とつながり、拠点の地区部にもつながる路線となっているので、寿台東口については今後そういう利用がしやすい環境を整えていきたい。実際には、あの停留所をみると待合場所も狭く、屋根もないので、停留所としての機能も地域の皆さんと今後ご相談しながら考えていかなければならないと思っている。
- エ ご承知かもしれないが、デリシアの屋上駐車場を借りてパーク・アンド・ライド的な位置づけをしている「エコ通パーク」があるが、5区画中2区画しか利用されていないのでご活用いただけたらと思う。
- オ 循環線というお話は今日初めてお聞きしたが、地域の課題を踏まえて地域の皆様とお話し合いをさせていただき、地域づくりにおいては足の確保が必要だと思っているので地域づくりセンターと協力しながら進めていく。
- カ AIデマンドについては、今、計画を練っているところだ。南部地域の寿地区周辺においては、寿地区の皆さんからデマンド的な交通での地域内の移動の足を確保してほしいというご意見があり、寿地区の皆さんにはアンケートや視察など研究していただいている。まずは、そのような盛り上がりや認識があるところと協力しながら、AIデマンドの実証実験を今年の秋ごろからできたらと思っている。いきなり大きなエリアでやるという形では、実用性の判断ができないので、寿台と松原とその周辺を含めた形で検討している。内田地区も隣接しているので今後地域の皆さんの意見を聞く中でニーズが確認できれば、そういったことの取り組みも検討していこうと思う。

(5) 市長発言

- ア 先ほどHさんから、内田にとっては松原（寿台東口バス停）とどうつながるかということが大きなポイントだというご指摘をいただいた。南部地域においては寿台東口バス停を公共交通の拠点の一つと位置付けて、これから路線の考え方やバス待ち環境を充実していく必要があると考える。そのうえで、内田から、そこにどうつながるか、現行の平日の1日2往復では利用者は増えないし、これからお年寄りが更に年を取って自家用車で移動できなくなった時には、対応不能だというご指摘をいただいた。
- イ これは内田に限らないが、松本市の中で人口がまばらな地区に住んでいる方々の足を、どう確保していくのかということは、極めて深刻で重要な課題だ。どうしてもある程度の輸送網を確保しようと思うと一定の人口集積が必要という現実と、人件費を抑制した移動手段の在り方も、いろいろな可能性が広がりつつあるということ、いま改めて考えている。
- ウ 今回、AIデマンドという呼び方で実証運行を始めるものは、費用としてはかなり掛かるもので、これをただ広げていける状況とは考えていない。まず、特定の地域でやってみて、それがいったいどのくらいの利用状況を見込めるのか、あるいはこれからいろいろなサービスが全国的に広がっていく中で、費用が低減していくことを検証していくことになるかと思っている。また、移動手段の一つとして、いろいろな乗り合いの形を模索していくことで、それぞれの地域に即した移動手段、拠点となるところまで、どう移動していただけるかということは、これから皆様と共に真剣に考えていきたい。
- エ 今日いただいたお話で、一番短期的に取り組めないかと思ったことは駐輪場の話

だ。具体的な場所を把握している訳ではないので、今直ちにお答えに至らないが、高校生が自転車でバスの拠点まではいけるので、そこに何らかの形で自転車を留め置ける場所を確保できれば、随分状況が好転するというお話を伺った。そうしたことを含めて公共交通の問題、なかなかご満足いただける状況を直ちに作ることはならないかもしれないが、この厳しい現実から目を背けずに、一つ一つ取り組んでまいりたい。

3 フリートーク

(1) D氏の発言

ア 先ほどから将来暗い話ばかりで、ここで暮らしていかなければならない身としては、さみしい思いだ。市長をはじめ内田地区在住ではない皆さんには、よく知っていただき関心を持っていただきたいし、ここに住んでいても、あまり興味がないと自分の地区でも実際には知らないことも多いと思う。センター長が作った資料にも載っているが、内田には非常に魅力的なものが数多くある。国の重要文化財が数多くある。牛伏寺については県下でも有名であるし、階段工は海外からも見学者が来る。馬場屋敷もそういったものだと思うし、ゴルフ場についても全国から来ていただける。崖の湯という温泉もある。農協の直売所もあり毎年25万人のお客さんが来ている。お寺が4つ、神社が3つ。照明があるグラウンドは市内全地区にあるわけではなく、使用頻度も高い。体育館もあるし保育園もある。価値ある資源が内田には豊富にある。全国的にも珍しいと思われるオートキャンプ場付きの市民農園がある。連合町会長も言っていたが、何と言ってもここから見える景色、北アルプスの展望、夜は市内の夜景、東には鉢伏山・高ボッチと、自然環境においても観光資源を含めて非常に魅力があると思っている。

イ 塩尻境の場所なので、正直、松本市から忘れられている地区ではないかと思っているが、塩尻インターを降りて松本の市街地に向かう際には、山麓線・片丘線でここを通ることになる。だから内田は松本市への入り口と思っている。高ボッチ・鉢伏山の登山は、崖の湯が中心の入口にもなっている。観光の面で市外から松本市に行くには内田は避けて通れない所と考えている。だから、こういった資源を市の方でもアピールし、有効活用していただきながら、内田の魅力をアップしていただけたらと思う。

ウ 人口減の問題は致し方ないと思う。役員のなり手不足等が問題になっていて、負担を減らしていくべきだというお話があったが、地区の役員に限らず、どの組織でも今そういう問題が出てきている。減らして組織をなくしていくのは簡単だが、結果的にそれが、先ほどから課題になっている問題を、より悪くすることになってしまうのではないかと思っている。

エ いろんな人がいて、無関心、忙しい、人づきあいが好きではない人がいるので、全員には難しいとは思いますが、先ほど言ったいろいろな地域資源があるということは、それに関わるコミュニティが必ず存在していると考えます。非常に小さなものから組織的にやっているもの、お寺さんと檀家がそれにあたるのかもしれないが、そういった小さなコミュニティを盛り上げていく方法があれば面白いと思う。それぞれのコミュニティが交流するような催しを企画できれば、さらに人と人のつながりが増えるのではないかと思う。いきなりグループとか組織というと少しハードルが高いので、単純に顔を合わせる機会を作ることと考えてはいかがか。これは心理学的にも接触する機会が増えることで親しみ易さが増すとされているし、さらに

そこに、笑顔になれる要素が加わると効果が高くなり、人と人とのつながりが増えていく。結果的にそれが大きな塊になれば、先ほどの交通弱者の問題等も自然に解決できるのではないかと。簡単に集まれる機会は何かと考えたときに私が考えた提案だが、成人式で集まる機会があり、特に負担もなく集まると感じているが、例えば「第2回目の成人式」で同じような取り組みをすとか、年男・年女をただ祝うだけとか、還暦の方を祝うだけということをしてみたら、そんなに抵抗なく集まれるのではないかと思う。

オ うちの地区では三九郎をしているが、これまで松を役員が各家庭まで取りに行っていたが、人が減って今年から中止とした。非常に心苦しいが、それによって三九郎に松を出せない人もいるが、そのうちの三分の一くらいの皆さんは持ってきてくれた。これは予想していなかったが、そこで顔を合わせる機会ができてコミュニケーションが生まれたのが逆に良かったと思う。普段やっていることを固定観念を持たずにいろいろ試してみたり変えて行くことも大事なこともあるのかなと思ったので、そんな視点でやっていただけたらと思う。

(2) 市長発言

ア 今日、確かに一番厳しい農業の話から始まったこともあって、少し上向きの話の空気になっていないところがあるが、前向きな話としていただいた。とりわけ牛伏寺や階段工や崖の湯という松本の中でも高い水準の観光の地域資源が内田に集まっているという事実、山麓線の景色というのはナンバーワンといってもいいような眺望であって、こういう所に、都市レベル・自治体レベルで交流人口を増やすという言い方をするが、中山から内田にかけての山麓線を通行して内田を訪れる人を増やしていくということは、地域資源からすれば十分可能性があって、そのことに松本市が情報発信や様々な誘客の部分で力をもって発揮するということが、実は、先ほどの農業の問題も、公共交通の利用者を増やして、今よりも状況を改善する事にもつながっていく話だということ、今話を聞いて、その視点を忘れてはいけないと感じた。

イ 「ハタチの記念式典」をもっと、年男・年女の会といったような形でやれたら、人の顔を合わせる機会を自然と生み出せる。少し敷居が下がって顔を合わせることになるというのは、地域づくり、住民自治の一つのヒントだと思うので、松本市全体で一気にやらなくても、個々の地区で取り組みを後押しすることができればと思った。

(3) I氏の発言

センター長からご指名をいただいて、せっかくの発言の機会をいただいたので、市長にお礼を申し上げて発言に代えたいと思う。3年前、臥雲市長が就任された年と記憶しているが、道路際に大量の不法投棄物が投棄されていて長年地元で苦勞していたことがあった。関係する議員の知恵も借りながら町会で対策を練ってきたところ、行政の皆さんが行政サービスの一環として処理してくれるという話が進み、それには地元で労力を出して道路まで運び出すという条件付きで始まった。ただその投棄された場所が私有地あるいは地区の財産地域という非常にデリケートな場所にあり、果たして行政サービスが妥当かどうかという問題があったようだ。どんな経過があったのか私は深く知る立場になかったのでお任せしておいたが、行政の皆さんに真摯に取り組んでいただいて問題が解決したので、地元としては大変感謝した。ただその時に私ど

もの詰めが間違っただのか、定例記者会見の席で、臥雲市長が釈明するような形の会見をせざるを得なかったということで大変ご迷惑をおかけした。行政の皆さんは本当によくやっていただいた。この問題については、どこに投棄されたかということで非常に線引きが難しいわけだが、現場の行政の皆さんが委縮することのないよう、市長には同様の問題等が発生した場合に、大局的な判断をしていただきたいという願いをして、お礼かたがた発言をした。

(4) 市長発言

- ア 今日には様々な角度から忌憚のない意見をいただき誠にありがとうございます。これは内田だけの問題ではないが、農業にしても公共交通にしても松本市の中で、非常に重要であるがゆえに、市民の皆さんの要望の強いことでもある。そこに一つ一つどう応えていくか、日々、私自身がしっかり陣頭指揮を執ること、そして担当課や地域づくりセンターでは市民の皆さんの声にしっかりと耳を傾けること、そこからしか始まらないと思っているので、今日は改めてそうした機会を持たせていただいた。
- イ 内田という場所のすばらしさ、一言でいえばこの眺望も、里山も、松本の中でも本当に美しい場所だと改めて感じた。先ほど不法投棄のことを振り返られたが、ああいう事案こそ内田に似つかわしくない、起こしてはいけないということで、これからも、そういう意識で取り組んでまいりたい。
- ウ 今日いただいた宿題については、改めて担当課や地域づくりセンターと話し合いをして、どこからどのように手を付けていけるかということで、また皆様と意見交換をする場を持たせていただけたらと思っている。
- エ 今年は、ようやくコロナが日常のものとして受け止めていくとなったことで、私も市長に就任して三年近くが経つが、市役所では、今まで以上に、とにかく行動を起こそう、検討でとどまるのではなく実行しようと言っているため、今日いただいた宿題は、小さなことになるかもしれないが、一つ一つ実行することをお約束して、今日は御礼の言葉に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

以上